

グリーンハーバー

NPO法人 みどりの市民 ニュースレター

No. 59号
2023.1

発行:NPO法人
みどりの市民
〒380-8553 長野市若
里 4-17-1 信州大学
工学部 UFO ながの
高木研究室内
発行人:高木直樹

「冬と環境と」

渡辺隆一 NPO法人みどりの市民理事

信州の冬といえば雪と寒さであり、環境問題としては第一に暖房のエネルギーを思い浮かべるかもしれない。昨年勃発した戦争でもヨーロッパのエネルギーが問題となったし、長野県の温暖化対策として「ゼロカーボン宣言」がされるなどエネルギーは大きな環境課題である。

確かにエネルギーは現代では大きな問題ではあるが、かつての信州の冬の問題といえば寒さのゆえに植物や作物は枯れ果てるので食べ物への対策のほうがより大きな課題であったろう。冬は寒くて腐らないので春までの食料を漬物や乾燥野菜、土にいけるなど様々な形で備蓄する工夫が考案されてきた。しかし、それらの多くは現在では忘れられていないだろうか。今はスーパーで何でも手に入る時代ではあるが、戦時中は町場でも庭を耕して芋などを植えていたという。



戦争は今や昔のことではなく現政権は軍備増強とそのための増税までしてあたかも戦争を期待するがごとくである。それでなくても食料自給率の低い日本である、絶対に戦争は起こしてはならないはずである。自然豊かな長野県も自給率は全国平均より低いという。軍備よりも食料自給率を上げることのほうが国民の安全安心を高める最も有効な手段であるだろう。

環境とは単なる気温や身の回りのあれこれではなく、それは生物を育てるものであり、生きるうえで必要不可欠である。それ故に人が環境として意識するものなのである。



そういえば、食べ物は生き物のエネルギーであり、そして人類は火や石油などをエネルギーとして体の外部で利用することを覚えて発展してきた。しかし、その使い方が過剰になって温暖化など地球の自然を狂わせるまでになってしまった。

冬は、じっくりとこうした根本から環境を考える季節なのではないだろうか。年頭にあって自らの生活を成り立たせている環境を再認識してみよう。

飯縄山頂 トイレブース に 思う事

南 雲 佳 子 みどりの市民会員

飯縄山に週に1～2回健康維持で登っていたところ、NPO みどりの市民・田中さんから「そんなに登っているなら、登るついでに色々手伝ってくれないか」と声をかけられたのが始まりでした。それ以来、ボランティアで8年前から登山道整備のための資材運びを、5年前からは飯縄山頂トイレの、アルコール消毒液・携帯トイレ袋の補充・清掃もやってきました。今年は269袋の携帯トイレの利用がありました。



5年間やってきて思った事を書かせていただきます。今年は、使用済みのトイレ袋を置きっぱなしが3件、椅子にトイレ袋も被せず直接排便し椅子や床も大便だらけになったのが1件、トイレ袋も利用せずレジ袋に大便しレジ袋から漏れているにも関わらずストック棚に押し込んでストック棚の中の物をダメにしたのが1件、利用する方のリュック置き場用に置いてある丸缶の上にレジ袋に小便を入れて袋の口も縛らず垂れ流ししてあったのが1件、と以上こんな状態でした。



携帯トイレブースの内部の現状

水の無い環境の中の清掃がどれだけ大変か、コロナ禍でどれだけ気を使ってやっているのか、こういう事をする人には分からないんでしょう。どうしてこのような事ができるのでしょうか。

毎年一定数こういう事があり解決せず、同じ問題の繰り返しで心が疲弊しています。このままのトイレではこの問題は解決しないと思っています。汚されれば次に山に登るまでの間は汚い状態が続き、その間に利用したくてもできない人もいます。

今、守屋山では諏訪市がクラウドファンディングを利用してバイオトイレにしようとしています。普通のトイレのような形のバイオトイレにすれば、定期的に補充する事も無くなりますし、置きっぱなしやレジ袋に入れて放置など無くなるのではないかと。

雪に埋もれた山頂の携帯トイレブース



また冬は冬でどちらかに傾かないようトイレの屋根の雪を落とし、トイレが雪ですっぽり埋まればトイレ小屋と雪のエアポケットに登山者が落ちないように周りに棒を立てて注意喚起しますが、棒が雪で埋まれば何回も立て直しに行きます。簡単に畳めるパネル式にすれば(柵池自然園で見たのは簡単に畳めそうでした)冬は畳めばこんな作業もなくなります。

管理保守する人が大変な思いをしないよう、また利用者にとっても便利ないい形になっていくよう願っています。

「愛犬の死 ～朝と夕方のゴミ拾い活動の始まり～」

山口吉久 みどりの市民理事

昨年の7月に16年間家族の一員として一緒に生活した我が家の愛犬が他界しました。

朝と夕方、毎日”散歩”していましたが同伴者が居なくなりどうしようかと迷いましたが健康管理のこともあり続けることにしました。

そこで思いついたことが海ゴミ対策講座での”ゴミ拾い活動”です。犬の排泄物処理で使っていた「道具(小バケツ、トングなど)」があり条件も揃い、家を中心に半径7～800mの周辺道路を、経路を変えてのゴミ拾いを始め5ヶ月になります。



ゴミ拾いの道具とゴミの状況

やはり交通量や歩行者の多い道路はゴミも多く、小バケツが満杯になる事もしばしばです。多いのはタバコ(吸殻、空箱、フィルム)、時節柄マスクも多く、空き缶・ペットボトルも結構あります。コンビニ周辺ではレシートやおにぎりの包装などが目立ちます。ゴミは家に持ち帰り分別処理(週2回)しています。

感じたことはただ拾っては「たちごっこ」になりかねないので、捨てる人にポイ捨てを止めることのアピールとゴミ拾いの”輪”を広げられればという両面活動の重要性です。「アピールは行政主体、ゴミ拾いは市民活動」として活発になるよう継続しようと思っています。

【ネット情報】<http://www.alterna.co.jp/>より

alterna

プラスチック汚染の解決を目指す国際ネットワーク「ブレイク・フリー・フロム・プラスチック」はこのほど、「プラスチック汚染企業調査」の2022年版を発表。同調査では、世界各地のボランティアが海や河川でプラごみを拾い、ブランドごとに集計している。その結果、ザ・コココーラ・カンパニーが、世界で最も多くプラスチックごみを排出したとして5年連続ワースト1位になった。2位にペプシコ、3位にネスレと続いた。(みどりの市民事務局追加)

◆◆◆「エシカル消費」の認知度結果から見えてきたこと◆◆◆

みどりの市民では「エシカル消費」の認知度について2つの異なる場面での調査活動に関わった。

その結果を報告。調査方法はいずれも直接依頼の自記式、無記名により回答を得た。調査期間は10月から11月の間。調査の一つ目は長野県立大学宮下ゼミの学生達との協働で行ったエシカル消費のアンケート調査。調査対象は長野市内の3つのスーパーマーケットの来店者合計170人。その結果は、「知っている」及び「聞いたことはある」と回答した人は合わせて24%で全体のほぼ4分の1、「知らない」は4分の3であった。

もう一つは、エシカルふえす長野実行委員会が調査した認知度調査、調査対象は長野市役所桜スクエアにおいて開催された「エシカルふえす2022」に参加した一般市民。結果は43%。エシカルふえすの会場でも半数弱の認知度であった。

2つのアンケートの平均は、33.4%であり、電通の実施した「エシカル消費 意識調査2022」の「エシカル消費」の名称認知は4割超えで、全国レベルよりも低い状況であった。長野県が目指しているエシカル消費認知度100%にはまだほど遠い。今後、官民協働による更なる啓発が必要である。(報告：事務局渡辺ヒデ子)



*エシカル消費とは(エシカル：倫理的・道義的)人や社会、地域・環境に配慮した消費行動です。具体的には、モノを大切にする、モノを選ぶ時に、フェアトレードのコーヒー、環境に配慮した商品(認証マークのついて商品)、地元で採れた野菜などを選ぶことです。



「[信州版]冬の省エネガイドブック」の紹介

このガイドブックは長野県地球温暖化防止活動推進員有志により発行されたものです。

県内に52名いる推進員の中で15名の”有志”の方々のご努力により2022年度改訂版として11月に発行されました。副題は「楽しく!無理なく!得をする!」です。A4版全35ページとなっており、大きくは温暖化対策を「緩和策」と「適応策」に分け、信州特有の寒さ対策なども紹介されています。

“もくじ”からキーワードの一部を紹介します。

- ・感染対策の換気をしながら、「暖かく」住み、「暖かく」過ごすコツは?
- ・家庭での冬の省エネ術
- ・値上げに負けないぞ!冬の食生活はエコ・クッキングで!!
- ・家庭のCO2の削減ポイント

是非、内容をご覧になって、ご自分のライフスタイルに合わせて一歩前進しましょう!!



詳しくは長野県温暖化防止活動推進センター

(026-237-6625)から冊子入手するか、下記にアクセスしてください。

<http://www.dia.janis.or.jp/~nccca/> (山口吉久 みどりの市民理事・長野県地球温暖化防止活動推進員)

◆◆◆どんぐり・るるネット◆◆◆



みどりの市民では、生ゴミ(堆肥化一次生成物)の回収と堆肥化の基材となる竹チップの配達をシステム化し

「どんぐり・るるネット」として運営しています。2022年度の会員数は60人です。すでに12月までで4回の配達・回収が終了し、残すところ3月実施予定の5回目だけになりました。3月9日には交流会があります。只今会員募集中!!

生ゴミ堆肥化ワンポイント
生ゴミを分解する微生物は10℃以下になると活動停止状態(休眠)になります。気温が低くなる寒い冬は、段ボール箱内の温度が10℃以上になるよう、暖かくする工夫をしましょう。

お知らせコーナー

◆◆◆エコサロン ～古布団をリフォームして可愛い小座布団づくり～ ◆◆◆

- ・日時/2月4日(土)9時30分~12時
- ・場所/ふれあい福祉センター 5階ホール
- ・参加費/700円 定員/15人



《*行事等はコロナの感染状況により変更の可能性あります。》

みどりの市民の会員数(2022年12月31日現在)
正会員 39人 賛助会員 14人 団体賛助会員 1団体

《NPO法人みどりの市民事務局》

〒380-8553 長野市若里4-17-1

UFO ながの高木研究室内

TEL&FAX 026-269-5092

E-mail: midorit18@shinshu-u.ac.jp

URL <http://midorinoc.sub.jp/>



《キャンパスの一隅にて》

新年明けましておめでとうございます。
新しい年を迎えて一日いちにちを大切に誓ったとたん、身の回りでは、コロナ感染、怪我人、病人などのニュース。世の中は、コロナ禍、ウクライナ戦争は収まる気配は無く、人は戦場や非常事態に鈍感になり、それに慣れてきている。穏やかに暮らしていける事の大切さを痛感してる。「日日は好日」(W.H)